

令和6年度第2回花巻市博物館協議会 会議録

1 開催日時

令和7年2月4日（火） 午前10時00分～午前11時30分

2 開催場所

花巻市博物館 講座・体験学習室

3 出席者

(1) 委員名 10名

佐藤由紀男委員（会長）、伊藤晴二委員（会長職務代理者）、藤田聖子委員、
佐藤幸雄委員、中島健次委員、鎌田愛子委員、門馬優子委員、大原皓二委員、
伊藤金人委員、佐々木さつき委員

(2) 事務局（博物館） 5名

佐藤勝教育長、中村良幸館長、村田豊隆副館長、菊池宏美管理係長、
小原伸博学芸係長

4 議 事

(1) 令和6年度事業の報告について

(2) 令和7年度事業の計画について

5 議 事 録

(1) 開会（進行：村田豊隆副館長）

〔協議会成立報告（委員10名中10名出席）〕

(2) 挨拶

（佐藤勝教育長）

委員の皆様、大変お忙しいところ、そして足元の悪いところご出席いただき大変ありがとうございます。

前回の博物館協議会は、「アニメージュとジブリ展」花巻市博物館展開幕の10日前で暑い時期でしたが、おかげさまで本年度の事業を進捗させることができました。特にも開館20周年ということで、特別展では、「アニメージュとジブリ展」花巻市博物館展には当初の予想の2倍以上のお客様に足を運んでいただきました。

また、先月まで開催した「縄文ワールドー写真家・小川忠博の世界ー」でもたくさんの方

にご来館いただいたという報告を受けています。

本日はそうした20周年事業のほか、本来の博物館の仕事である調査研究、資料収集、展示、教育普及それから花巻市史の編さん及び児童向け市史の編集、さらに博物館法が改正されたことに伴う登録博物館の再登録に向けた取り組みなどについてもご報告いたします。

また、確定しておりませんが、来年度におきましては、日本酒などの酒造技術がユネスコ無形文化遺産に登録されたということ、令和7年度が終戦から80年ということから、それらにちなんだ事業を予定しておりますほか、講座の充実、市史及び児童向け市史の編さん事業、博物館周辺の環境整備を予定しています。

そのほか、花巻市が合併して19年となり、市民の皆さんからも常設展については旧花巻市のものが中心だというお声もあり、そろそろ展示内容の見直しをしなければいけないと感じており、構想を練っているところです。来年度の博物館の事業の充実に向けて、様々忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

(3) 議事

(村田豊隆副館長)

次に議事に入ります。議事につきましては規則第9条第2項の規定により、佐藤会長に議長をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(佐藤由紀男会長)

皆さんご承知のことだとは思いますが、この会は博物館長に対して意見を述べるという会でございます。何かを決めるであるとか、この改定の発言が何かの拘束力を持っている会ではありませんので、できるだけご自由にあまり気兼ねなくご発言をお願いしたいというふうに思います。よろしくお願いいたします

では、議事に先立ちまして花巻市審議会などの会議の公開に関する指針第4項により、委員会の公開非公開の決定について委員に諮ることが定められています。本協議会是指針第3項に定める公開しないことができる要件には該当しないことから、当協議会を公開とすることでよろしいですね。

(異議なしの声)

公開いたします。

それでは議事に入ります。令和6年度の事業報告について議題いたします。事務局から説明をお願いいたします。

[小原伸博学芸係長が資料1～8ページについて説明]

(佐藤由紀男会長)

それではご質問、ご意見のある方はご発言をお願いします。

(伊藤晴二委員)

教職員との連絡会議研修会の内容についてですが、どんな声が先生方から出たのか紹介していただければと思います。

(小原伸博学芸係長)

連携研究会についてのご質問でしたけれども、小学生が見学した際に使用するワークシートを先生方にも使用してもらって、実際に展示見学の体験してもらうという研修会を行いました。その中で、「小学校低学年にもわかりやすいような表現の仕方がいいのではないか」「もう少し近代のところを詳しくするとより花巻に関することがわかるのではないか」「小学校低学年に向けたワークシートに改良をした方がいいのではないか」という声がありました。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。

(鎌田愛子委員)

「アニメージュとジブリ展」についてですが、コマーシャルなど宣伝がとてもされていて、とても見たいと思って始まった展覧会だったと思います。

入館者数を見てもわかりますが、展覧会に伴ったいろいろな関連した事業が展示会の間に絶え間なくもなくやっていたというのが皆さんの興味を引いたのかなと思います。

自分の親戚やいろいろな人に展覧会を見に行つてと言ったのですが、すごく混んでいて入れなかった、見れなかったという声をちょっと耳にしまして、企画的にも大変良かったのかなと思います。準備から何から、博物館の方のいろいろなご苦労があったのかなと思いますし、市の方でも観光課など、そういった方たちも一緒になって盛り上げていたところ、とてもよかったなと思います。

この期間中ですけど、いろいろ大変なことはあったかと思いますが何か困ったこととかはあったのでしょうか。

(村田豊隆副館長)

アニメージュとジブリ展は8万人近いお客様にご来場いただきまして大変好評をいただいたというふうに捉えてございます。博物館としましてはこのような大型の展示会の運営は不慣れであったということもございまして、特にたくさんのお客様がいらっしゃるという中では駐車場の混雑であったり、会場内も一部入場を区切りながら来場していただ

いたというところで、お客様にはご不便などおかけしたというところもございます。事故なく66日間の会期を終えられたということは、博物館としてもほっとしております。また特に大きなトラブルはなかったと捉えております。

関連するイベントにおきましても、市のほかの部署をはじめ、市内の関係機関や団体の皆さんにもかなりご協力をいただいてイベントもそれぞれ実施することができましたので、そういう意味では展覧会だけではなく、市内の活性化の一部にもなったのではないかと捉えているところでございます。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。

(藤田聖子委員)

ジブリ展に関わってですが、9月19日に千厩小学校6年生が来ているというのを見て驚いたところで伺いたいのですが、千厩小学校では毎年、校外学習で来ているのか、それともジブリ展を目指してきたのかというところと、県内の小学校に広報をしたのかというところを伺います。

(菊池宏美管理係長)

修学旅行校外学習の見学のところで千厩小学校の見学についてのご質問でしたが、千厩小学校は毎年博物館にいらしているわけではなく、今回、学校側から修学旅行に合わせてジブリ展をぜひ見せたいということで、学校からのリクエストを受けてお越しいただいたという経緯がございます。ジブリ展ですので、どうしても修学旅行の行程として時間を区切るというのがなかなか難しく、何回か旅行会社とも打ち合わせをしながら、2クラスについて1クラスを2班に分けてご見学いただきました。ジブリ展をメインに見ながら、合わせて常設展も見学いただきました。

広報につきましては、県内の各学校にはポスターを送付いたしました。花巻市内の中学校小学校にはチラシも配布いたしました。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。

(鎌田愛子委員)

ワークショップで石鳥谷中学校が武具体験というものをされているのですが、こういった内容なのでしょうか。

(小原伸博学芸係長)

ワークショップの体験についてのご質問でしたけども、体験用の甲冑がございまして、それを着用してみるという体験になります。武具それぞれの部位や使用方法などを紹介してから、みんなに着てもらうのですが、体験用の鎧があまり大きくなくて、小学5年生くらいの体型のものでして、中学生にはちょっと小さく、小柄な方しか着られなかったということがありました。

(佐藤由紀男会長)

それは重さですとか、構造などはきちんと復元されているもの、特に重さも復元されている物をご使用になっているのでしょうか。

(小原伸博学芸係長)

重さまできちんと復元しております。

(佐藤由紀男会長)

わかりました。

他にはいかがでしょうか。

(門馬優子委員)

私も終わりの頃にジブリ展拝見しましたけれど、すごい混みようでして、駐車場も遠方からの車が多いことにもびっくりいたしましたし、列を作って入場制限をするというのは珍しい光景だなと思って感心いたしました。

それにしてもテレビのコマーシャルも流れまして、ジブリ展に関する興味を先ほど鎌田委員さんもおっしゃったように、多方面から興味を引くようないろいろな工夫がなされていて、いい機会だと思っております。

各種ワークショップに結構な人数の方たちが参加されていますけれど、これは主に市内のお子さんが参加したのでしょうか。ワークショップの参加者の内訳について伺います。

(村田豊隆副館長)

お答えいたします。まずジブリ展で行いましたワークショップにつきましては、実態から申しますと大半が市内の小・中学生ということでした。

開催の半月ぐらい前に募集をかけたのですが、募集開始から2日ぐらいで定員に達する盛況ぶりということで、一部、県外の方、市外の方も数人いらっしゃいましたけれども、3回のワークショップの中で参加されたお子さんの大半は市内の小・中学校ということでしたので、花巻市での開催ということで地元の小・中学生に参加いただいたのはすごくありがたかったと感じております。

また通年行っております博物館のワークショップにおきましても、ほとんどが市内のお子さんに参加いただいているという状況でございます。

(佐藤由紀男会長)

よろしいでしょうか。ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

皆様からなければ、私から一つ質問をさせていただきます。ジブリ展に伴うワークショップのところで、通年行うワークショップについてですが、ジブリ展のワークショップは、募集をして定員に達したということで、10時から16時という時間ですから、ずっと参加者120名ですか190名がずっとワークショップをやったというふうにはなかなか考えにくくて、ワークショップというのは当たり前のことですが作業を伴う講座ですので、1人の職員が対応できる人数というのは教育的効果を考えると限られているんですね。

もし、仮にこれが100名を超える人数を10時から16時までずっと行っていたとなると、これはある程度の形が整っても、教育的効果的にいかなものかというような気もしないわけではありませんし、もう一つのですね、通常行っているワークショップでも9月28日は親子レクですので通常とはだいぶ違うとは思いますが、100名を超える人数ですね。こうした時の対応というのが、ワークショップは特に人が集まればいいというよりも、実際の作業をしてその作業の中でいろいろなものを学んだり、博物館の職員との関係性を深めていくということ、博物館に馴染んでいただくということも、とても大きな目的だと考えられておりますので、この辺人数が多いときにはどのように対応されていたのか、場合によっては今後、場合によってはですけども、人数制限をもう少しきつくした方がいい場合もあるかと思うのですが、その辺はいかがでしょうか。

(村田豊隆副館長)

ありがとうございます。最初に5回開催したジブリ展に関連するワークショップでございますけれども、こちらは花巻おもちゃ美術館さんに協力をいただき、おもちゃ美術館のスタッフが講座・体験学習室を会場にしましてワークショップを開催していただいたところに、博物館は会場の提供と一部受付などのお手伝いという形で実施したところです。花巻おもちゃ美術館さんから3名程度のスタッフにお越しいただいて、実際10時から16時までの間で、お昼の1時間休憩時間を取りましたけれども、あとは通しでずっとワークショップを開催したというような状況です。実際にはこちらのアニメーションとジブリ展の入場券をお持ちのお客様に限定したというような形で、一部参加の制限がございましたけれども、受付後体験をする木の卵をお渡しして、スタッフが作業の援助をしながら絵付け体験をするということで、実際一つのワークショップの作業が終わるまでに10分から15分ぐらいの作業という、体験というような形態でのワークショップでございましたので、会長がおっしゃるような教育的な効果というよりはイベント的なワークショップの要素が強かつ

たのかなというふうに感じておりますが、やはりお子さん中心に短時間で制作ができるというようなところの手軽さというところの中で毎回150名とか200名近い方に体験いただけたのかなというふうには感じているところでございます。

それから通常ワークショップでの大人数への対応でございますけれども、こちらは実際にいらっしゃった皆さんを班分けして、それぞれ弓矢体験であったり、火おこし体験を説明して、体験をしていただいて、どうやったら弓矢が飛ぶとか、火起こしがしやすくなるというところをお伝えしながら対応させていただいておりますので、こちらの方に関しては博物館のスタッフもそれなりの人数で班ごとに対応したというような状況でございます。

(佐藤由紀男会長)

はいわかりました。ということはジブリ展の方は、いっぺんにこの人数がではなくて、1回の20人、30人ぐらいが、入れ替わり立ち代り体験したということですね。

ただ、ワークショップを最初に始めたのは東京都の美術館が1910年代に始めて、最初はダンボールの造形だったと思います。要は、ある程度時間をかけて博物館職員と参加者との距離が近いところで、ある程度時間をかけて行うというワークショップが、本来の目的の部分だと思うのです。それがまたその定義や講座とは違う形で館のスタッフとの関係を、地域の住民との関係を深めていくという機会になってきますので、こうした短いワークショップももちろん必要でそれをやることはとてもいいことだと思うのですけども、最初に日本で行われたワークショップのような形で少し時間をかけて、また違った目的でやるワークショップなども今後、少し検討されても、館が常にやっているものは、きっとそんなに時間をかけるワークショップではないかと思うのですね。時間をかけるワークショップを年に何回もやるのは大変ですから、大きな館でも本当に1年に1回とか、何年に1回ということになっていますからそれは構わないと思うのですけども、もう少し違った目的のワークショップのあり方もあるのかなというふうに思った次第でございます。

他にはいかがでしょうか。

(佐々木さつき委員)

アニメージュとジブリ展大盛況で、私も近所に住んでいるので、他府県のナンバーの車を見かけたり、駐車場の警備をしている方も大変だなと思って見ていたのですが、ジブリ展にいらした方が、常設展の方をどれぐらい一緒に見てくれたのかなというのがちょっと気になったので、教えていただければと思います。

(菊池宏美管理係長)

お答えいたします。ジブリ展会期中の常設展の見学者ということのご質問だったと思います。今回のジブリ展ですが、ジブリ展の入場券をお買い求めいただいた方は、常設展も見ただけのような仕組みにしておりました。期間中、もちろんジブリ展のご見学の方がか

なり多かったのですけれども、常設展の方にも、統計をとっていたわけではないのですが、8割ぐらいの方は見ていただけたと思っております。

見学ルートの流れとして、入場後、まずジブリ展を見ていただいて、その後物販コーナーを通りまして、退場の際に「常設展も見られますよ」というお声掛けと案内を常にフロアスタッフの方でかけさせていただきました。そうしますと、やはりそのまま、常設展の方に、初めて来ましたという声を掛けられる方もいらっしゃいましたし、常設展に設置しておりますワークシートもかなりの枚数が出まして、やはりご見学いただいている方が多かったことによる増刷というのがありましたので、そこからみてもかなりの方にご見学いただいたと思っております。

それからジブリ展期間中であっても、常設展のみ見学ご希望のお客様も一定数いらっしゃいましたので、そういったところからも常設展をその期間中見ていただけたと思っております。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。

(門馬優子委員)

縄文ワールド写真展についての話が出ませんので、一言感想を申し上げたいと思います。

とてもすごい迫力でして、展示方法を工夫されていました。展開図などはものすごい迫力に圧倒されました。感動した知り合いの話では、3回も4回も見学に来たと申ししておりましたし、私も複数回行きましたし、80日間で来館者が多くなるのではないかと考えていたのですが、5,000人足らずということで、縄文関係の講演会を開催しますと、花巻はすごく参加者が多くてすごい人気があるのですけれども、その割には入館者が少し少なかったかなという、私としての感想を持っております。

花巻市各地遺跡がいっぱいありまして、特徴のある縄文土器もいろいろ発掘されておりますけれども、そういう特に興味の深い方たちが今回の写真展で、全国各地の発掘物を見まして、学芸員の方たちがその会場にいらっしゃったらちょっと聞いてみたいと思うこともありましたが、会場に学芸員の方たちが、常時何人かいらっしゃるということはあったのでしょうか。

(村田豊隆副館長)

縄文ワールドの特別展でございましたけれども、ご質問いただきました、学芸員が常時会場にいて解説などの対応をされたかということに関しては、特にそこまでの対応はしておりませんでした。ただし、博物館においてになる団体をご希望された場合には、担当の学芸員が解説員という形でそちらの団体に付き添って説明をするというような機会は設けさせていただいたところでしたけれども、個別の対応というところまでは対応できませんでし

たので、そういった部分では来館者へのお知らせに工夫の余地はあるかなというふうに感じたところでございます。

なお会期中、今回監修をいただいた写真家の小川忠弘さんのギャラリートークや、館長講座ということで縄文時代に関する講座なども関連して開催しまして、参加者もいらっしやったというところがありましたので、そういったところでは、皆さんに今回の展覧会の内容をお伝えできたかなというふうには感じているところでございます。

(佐藤由紀男会長)

よろしいでしょうか。少し付け加えますと学芸員の業務として常設展示室や特別展示室に学芸員がいて質問を受け付けるっていうことは、どこの博物館でも基本的にはやりません。全国的にもやっているところはないです。それは学芸員の業務と言えばそうですけども、そこまでやるということで学芸員を採用している博物館はないというふうにお考えいただきたいと思います。質問があれば受付を通して学芸員に伝えていただくというのが原則でありますので、特に花巻市博物館の対応が、他の博物館に比べて問題があるということは全くないというふうにご理解いただきたいというふうに思います。

他にはいかがでしょうか。それでは令和6年度の事業報告については終了といたします。議事の2番目、令和7年度事業の計画について事務局から説明をお願いします。

[小原伸博学芸係長が資料9～10ページについて説明]

(佐藤由紀男会長)

ありがとうございました。ではご質問、ご意見をよろしく願います。

(中島健次委員)

常設展示について、先ほど教育長さんのお話ありましたけれども、私も自宅が近いことで度々お邪魔するのですが、やっぱりテーマ展で集客を図って、その流れの中で何パーセントかが常設展示を見るというのを感じているというところですが、数が全てではないですが、ここに書いてある通り、常設展示も古くなったといいますが、やはりリニューアルの必要性はあるかなというふうには思っていました。ここに記載している通り、旧花巻地域にというのは当時この施設の成り立ちから当然ですが、合併後のやはり1市3町全体の部分ということになると、リニューアルは必要かと思いますが、限られたスペースの中でどういう形のものをそこに押し込めるか、あるいは常設展示の中でも常設という意味での展示替えがローテーションでやるかどうかという部分も含めて、タイムスケジュール、これからリニューアルの検討が始まると思いますが、基本的な考え方をもしお持ちであればお聞きしたいと思います。

(村田豊隆副館長)

ありがとうございます。今ご指摘いただきましたように、常設展示室が平成 16 年に開館して以来大幅な展示替えというのは行っていないという状況です。合併以前の開館でしたので、現在の常設展示の資料構成とすると圧倒的に旧花巻市の資料が中心の展示となっております。展示内容につきましても、考古、歴史と美術工芸でございますけれど、中心となる花巻城という一つの大きなテーマの部分は、おそらくそのまま中心となる展示構成になるのだろうというふうには考えておりますけれども、発掘調査などで新たに資料が増えてきた、それから合併以前の旧 3 町の資料というところも考えますと、そういった考古の資料ですとか、中世、近世におきましても、開館以降に新たな調査成果が出てきたものということもありまして、やはり更新していく必要があるというふうに考えております。とは言いまして、今お話いただいたように限られたスペースということでございますので、実際に今ある展示している資料あるいは模型など、そういったものも見直しや改修、修繕というところも視野に置いてリニューアルというのは考えていきたいと思っております。

実際にどのようなスケジュールで進めていくかということでございますけれども、実際には検討を着手するという段階で、まだ予算的にはゼロからのスタートということでございますので、具体的に何年度ごろにその改修の工事ができるというところまでの見通しが立てられていない状況でございますけれども、実際に一定のお金も必要になる事業になるとは捉えておりまして、市の他の大型事業も今後数年の中に控えている中でもございますので、そういった大きな事業との兼ね合いも調整し、市の方とも検討しながら、できるだけ早い時期にリニューアルができればいいなというふうに考えております。

まずは、博物館の中でこういった展示構成に再編していったらいいかというところを、来年度内部での検討を始めていきたいというふうに考えているところでございます。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。

(伊藤晴二委員)

展示活動の二つ目のテーマ展「戦後 80 年 戦争と花巻」について、いろいろと検討されているのでしょけれども、私は是非ですね、もう体験した方々が 90 歳を超えていますから、戦争体験、あるいは戦争の思い出、そういったものを記載、まとめる最終の時期ではないかなという気が個人的にはしていますが、その中で取り上げてほしいのは、一つ被爆者の、昨年のノーベル平和賞日本被団協が受賞しましたので、その中の岩手県の名誉会長である斎藤正一さんが今 101 歳で、なかなか記述も難しい状況ではあるのですが、彼の記載したものとか、あるいは彼の講演したものとか、花巻で被爆者がいること自体を知らない、わからない方も多分いると思います。ノーベル平和賞という大きな意味もありますので、何とかこれを取り上げていただきたいなというふうに思います。

それからもう一つ、花巻空襲、当然頭の中には入っていると思いますが、花巻空襲についてもかなりやっぱり記憶に薄れてしまっているのです、私も実は2年前に西南中学校で戦争について案内してほしいと言われて、花巻駅前に空襲の爆撃を受けたときの砲弾を使った神社があるんですよね。先生から「こんなのあったの」と言ってびっくりされて、そういったものがまだまだ知られてないという部分がありますので、大変ではあると思いますが、そことか、あるいは花巻の笹間の南側にある後藤野飛行場の爆撃された状況などについてもたくさんいろいろあると思うので、大変ご苦勞をかけますが、何とかですね検討していただきたいと、是非これは大きな事業として成功させたいと思っていますので、よろしくお願いします。

(小原伸博学芸係長)

貴重なご意見ありがとうございます。体験者のお話などのまとめには、最後の時期になっているのかなと思っておりますので、まとめていきたいと思ひますし、花巻空襲についても、普段出前授業でも取り上げておりますので、そういったところでも紹介していきます。

また後藤野の飛行場から特攻隊が出征したことなども、特集的に展示内容に組み込む予定です

(村田豊隆副館長)

一つ補足でお話をさせていただきますと、今回の「戦争と花巻」の展示会に合わせまして、市役所総務課の方では非核平和展というパネル展示を行っていますが、こちらの展示との同時開催という形で、この展覧会をしたいというふうに考えております。今のご意見いただいたようなところも、総務課の方とも話をさせていただきながらどういった形で紹介できるかというところは検討させていただきたいと思ひます。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。

(大原皓二委員)

令和6年度も大変素晴らしい展示やその他活動の素晴らしい実績がございましたし、令和7年度については期待をするところでございます。その中で佐川美術館コレクションの中の平山郁夫さんの作品は何点ぐらい出るものか。それからもう一つ、博物館敷地および隣接地の環境整備について伺います。

(小原伸博学芸係長)

まずは、佐川美術館コレクション平山郁夫展に何点出るかというご質問でしたけれども、現在の予定では約50点。大きな作品から中ぐらいの作品を今選定しております。

(村田豊隆副館長)

環境整備についてお話をさせていただきます。環境整備の内容につきましては、博物館に隣接する沼の北側の松の木をはじめとする、雑木も含めてなのですが、こちらを伐採処分するという事業内容で今予定をしております。枯れた木が20本ほど確認できるような状況になっておりますし、やはり景観的にも見通しが効かない状況になっているというところの中で、この枯れた木が、今後博物館側に倒れてくる心配もある中で、今回環境整備という形で樹木伐採を令和7年度に実施するという計画をしているところでございます。以前からこの協議会でもご指摘いただいたところの部分で対応させていただくという趣旨で予定しているところでございます。

実際予算が措置された場合には、令和7年度に着手するところでございますけれども、実際にはおおむね周辺施設のイベントなどが落ち着く秋以降、年度後半の作業というところで計画しているところでございます。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。

(鎌田愛子委員)

「酒造りのわざ」ということで、4月から始まるわけなのですが、これについてもチラシはすでにできているのかなと思いますが、もしまだであれば、石鳥谷歴史民俗資料館のことについても南部杜氏の酒造りの用具が展示されていますので、チラシの中に定期公開の情報を載せていただければ幸いだなと思っております。

もう一つですが、博物館で収蔵品がすごく多くて収蔵できなくなっているといったお話をニュースで見たことがあるのですが、花巻市博物館でもやはりそういった状態なのでしょうか。

(小原伸博学芸係長)

酒造りの技のポスターの作成についてですが、今検討しているところですので、石鳥谷歴史民俗資料館の収蔵庫公開についても掲載したいと思っております。

収蔵庫についてですけれども、花巻市博物館の収蔵庫も全国の博物館・美術館と一緒に満杯に近い状況にはなっておりますが、資料を整理しながら、分けながら整理をして収蔵庫を開けて収納しているところでございます。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。

(伊藤金人委員)

展示活動をいろいろ計画しているようですけれども、最近花巻市博物館で図録を作って、の展示がなかなかされないようですけれども、これは予算がないからなのかわかりませんが、そういう図録をつくる予定はないのでしょうか。

(小原伸博学芸係長)

図録に関してですが、今後、図録の作成も含めた展示などもしていきたいと思っております。花巻の三画人なども含めまして、花巻の焼き物なども視野に入れながら図録の作成は今後検討してまいります。

(佐藤由紀男会長)

では、私から常設展示について、開館以来大幅な展示替えを行っておらず、展示内容に地域的な偏りがあるから市内全域を網羅した展示内容となるよう、調査検討していくということですね。去年あたりから検討を始められていると思うのですが、かつて私も政令市の博物館で学芸員をしたことがありますけども、展示替えをするというのは計画を始めて、実際に予算がついて出来上がるまでというのはそれなりの時間がかかりますよね。その市の予算状況によってですけども、私がいた政令市でも10年とは言いませんけども、5年以上はかかったというふうに記憶しております。ですから、リニューアルに関わる部分で大きなことができるのならば企画展で行うという方法も、新たな情報を流していくということですね。来年度も市史に関する企画展を行うということですから、そうした意味も持ち合わせているかと思う

そうではなくて企画展にならないような小さな部分、例えば花巻市の場合には展示の中心が近世の花巻城を中心にした近世の花巻が一番場所をとっているかと思うのですが、あの部分で不足しているのは、開館当時が明確ではなかった遺跡の発掘調査によってですね、花巻城の発掘調査によって新たに分かったことで、花巻城に関する委員会の議事録などを見ても、いろんなことが新たにわかってきているようですし、ここでの企画展をやってからもうしばらく時間が経っております。

そうなると、例えばそうした企画展まではいかないけどちょっとした展示で新たな情報をリニューアルするまでの間に、例えば花巻城の発掘調査のことなどはですね、ウォールケースですね、受付脇のウォールケースで等観展の時は5月23日から7月7日まで紹介をしているようですし、縄文展のところのときにもその場所を使って紹介をしたというふうに先ほど館長に伺いましたので、館内のそうしたスペースを使って展示ケース一つでも二つでも何かリニューアルがされるまでの新たな情報で、特に花巻城の発掘調査などはある意味では市民の関心も結構高いのかなというようなイメージを持っておりますので、それにこだわらず、できるだけ新たな情報も市民に提供していくことも少しご検討いただけると常設展の大幅な展示替えまでの何年か先の間を繋ぐような形でも、新情報審議提供でき

るのかなというふうに思いますので、検討だけでも是非していただければというふうに思います。

(村田豊隆副館長)

ありがとうございます。今ご提言いただいたようなところで検討させていただいて、少しでも新たな情報を市民の皆様にお伝えできるような形で検討させていただきたいと思います。

(佐藤由紀男会長)

他にはいかがでしょうか。特になければ、令和7年度の事業計画について終了したいと思います。以上をもちまして本日の議事を終了いたします。委員の皆様にはありがとうございます。以降は事務局に進行を戻します。

(村田豊隆副館長)

次第4 その他になります。皆様の方から何かございますか。

閉会の挨拶を館長から申し上げます。

(中村良幸館長)

大変貴重なご意見をたくさんいただきましてありがとうございました。

ジブリ展へのご質問が多かったように思いますけれども、やはりジブリ展は期間が良かったということがまず一つあると思います。やはり夏休み期間に当たったということ。それからご来館の方を見ますと、この博物館ではあまり見られない親子三代といいますか、おじいちゃん、お母さん、子供という三代連れのお客様が非常に多かったということで、あっという間に入場者数が増えていったということ。もう一つよく見ますと、若者といいますか、皆さんみんなスマートフォンを持っていまして、SNSで情報見ていろいろ調べているようなので、これからはやはりSNSとかを活用した情報発信というのは大事になってくるのかなと思っています。その点では、縄文ワールド展の時には、マスコミに対する対応が遅かったのもありまして、入館者がちょっと伸びなかったのかなという気はしますので、うまくSNSやマスコミを使いながら宣伝を深めていきたい、広げていきたいと思っています。

それから常設展につきましては、リニューアルについていろいろご意見いただきましたけれども、やはり今展示していますのは、考古部門は20年経っておりまして、出土資料もものすごい数が増えており、三町の方の数がかなり多く出ております。それから三町の部分で足りないのは、信仰関係、早池峰信仰や民俗芸能、民俗関係というところが、少し不足している面があるなと思っていますので、そういう面を少し充実させていくように進めたいと思っていますので、先ほど佐藤会長からもご指摘ありました通り、スペースを使いながら、宣伝も兼ねながら検討していきたいと思っています。

これからも皆様の忌憚のないご意見をいただければと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

(村田豊隆副館長)

以上をもちまして令和6年度第2回花巻市博物館協議会を閉会いたします。本日はお忙しいところどうもありがとうございました。